

Q

市はどれくらい借金をしているの？返済できているの？

A

借金残高は大きく減少！ただし、今後の大型事業による返済額の増加も

借金残高は、市町村合併直後（平成16年度末）には約1,107億円だったものが、令和6年度末には約544億円となり約563億円減少。また、借金返済額の割合を示す「実質公債費比率」は、平成18年度末の20.8%をピークに減少してきたものの、近年は微増傾向にあり、令和6年度は7.1%となっています。

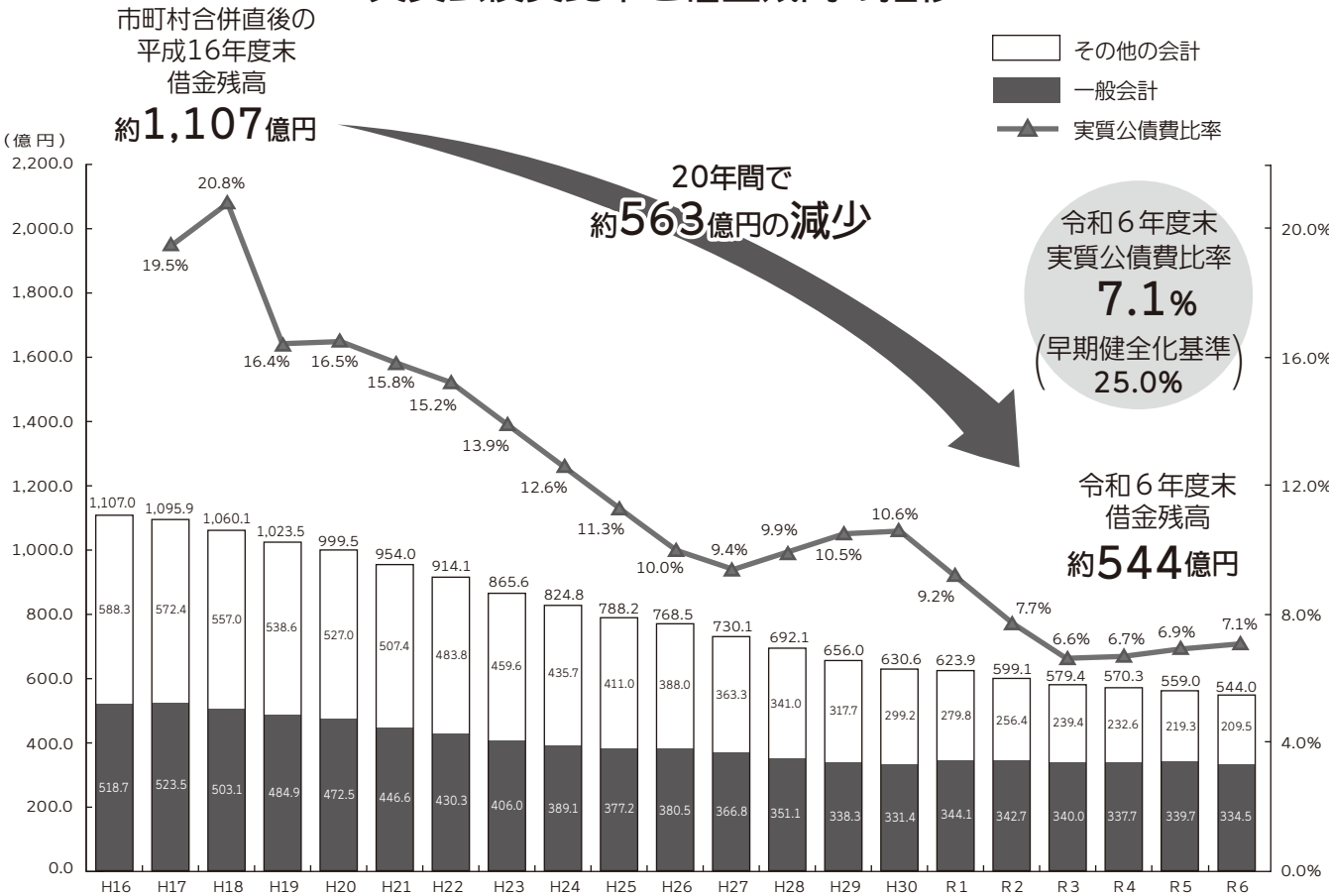
今後もリニア関連事業をはじめとした大型事業の推進がしばらく続くため、基準値内における増加が見込まれます。

実質公債費比率を家計に例えると…

家や車のローンなど、その年の返済額が年収の25%以上となった場合、借金漬けの状態となり、ローン返済に追われ家計が苦しくなる可能性が高くなります。



実質公債費比率と借金残高の推移



CHECK 02

資金不足比率

各公営企業会計（水道事業会計、病院事業会計、下水道事業会計）の事業規模に対する資金不足額の割合

令和6年度	—（注3）
令和5年度	—（注3）
経営健全化基準	20.0%

（注3）すべての企業会計において資金不足がなかったため、「—」と表記しています。

中津川市の財政は健全？将来への不安は？

～中津川市財政の健全化に関する指標～

問 財政課（☎内線434）

市では、法律に定められている指標に基づき、市の財政状況を客観的に表すことで、財政の早期健全化や再生の必要性を判断しています。令和6年度決算における中津川市の財政健全化に関する指標は、全て各基準を下回っていますが、引き続き借金を極力抑制し、健全な財政運営に努めていきます。

CHECK 01

市の財政状況を判断する4つの財政指標

	実質赤字比率 最も主要な会計である「一般会計」などに生じている赤字の割合	連結実質赤字比率 市民病院や上下水道など公営企業を含むすべての会計に生じている赤字の割合	実質公債費比率 市の平均的な年間収入に対する借金返済額の割合	将来負担比率 市の平均的な年間収入に対する将来に負担が見込まれる負債（借金）の割合
令和6年度	—（注1）	—（注1）	7.1%	—（注2）
令和5年度	—（注1）	—（注1）	6.9%	—（注2）
早期健全化基準	12.11%	17.11%	25.0%	350.0%

（注1）すべての会計で実質赤字額がないため、「—」と表記しています。
（注2）市が将来負担すべき負担額に対し、基金などの充当できる財源が上回っているため、「—」と表記しています。

Q

なぜ借金をするの？

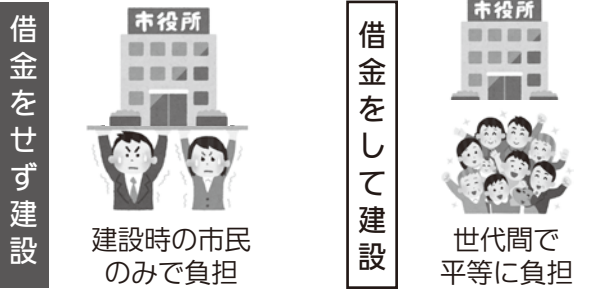
将来にわたり公平に負担するためです！

A

市の公共施設（学校、病院、道路など）は、現在整備を行う施設であっても、将来にわたり継続して使用する施設です。

そのため、建設費用を将来にわたり施設を使用する人みんなで、建設費用の負担を平等に分割する意味で、借金をします。

新たな市庁舎を建設する場合に例えると…



Q

将来に負担はかからない？

負担がかかる可能性は低いと言えます！

A

「将来負担比率」は、市の平均的な年間収入に対する将来に負担が見込まれる負債（借金）の割合を示し、借金などの合計が収入に対して大きすぎないかをチェックします。

令和6年度末
将来負担比率
発生していません
（早期健全化基準）
350.0%

将来負担比率を家計に例えると…

家や車のローン残高など、これから返済が必要となる総額が、年収の3.5倍以上になった場合、身の丈を超えた借金であり、円滑な返済が難しくなる状態であることを示しています。